

月刊 TENGA

2023
1.25
第四十九号

特集

パートナーの性への
理解が深い若者たち

2000人
世代別調査

Z世代男性の性生活・性意識白書【後編】

月刊 TENGA web版はこちら

<https://www.tenga.co.jp/topics/category/g-tenga/>



全国の男性2000人を対象とした調査 Z世代男性の性生活・性意識白書【後編】

～各世代の18～26歳当時で比較する、若者時代の「パートナーとの関係性」の変遷～

TENGAは、時代とともに男性の性生活・性意識がどのように変化したのかを探るべく、全国の男性2000人に調査を実施しました。今回の月刊TENGAでは、ミレニアル世代・Y世代・ロスジェネ世代・バブル世代の18～26歳当時と比較して、Z世代の男性のパートナーとの関係性について紐解きます。

本レターに記載の情報は、画像素材を含め、ご自由にお使いいただけます。

その際は、「出典：月刊TENGA第49号」とお書き添えください。可能な限り、

<https://www.tenga.co.jp/topics/category/g-tenga/>へのリンクも掲載いただけますと有難いです。

グラフ画像ダウンロードURL：<https://www.tenga.co.jp/gekkan/gekkantenga49.zip>

【調査概要】

調査タイトル	: 全国の男性の性生活・性意識に関する調査
調査主体	: 株式会社TENGA
調査方法	: インターネット調査
調査対象者	: 全国 / 男性 / 18～57歳
世代	: Z世代(18～26歳)、ミレニアル世代(27～35歳)、Y世代(36～42歳)、ロスジェネ世代(43～51歳)、バブル世代(52～57歳)
調査期間	: 2022年12月6日～12月9日
サンプル数	:

Z世代	853人
ミレニアル世代	342人
Y世代	353人
ロスジェネ世代	342人
バブル世代	353人
計	2243人

※サンプル数：マスターベーション/セックス経験のある人、なおかつミレニアル世代～バブル世代は18～26歳の時に交際経験のある人を対象としています。

※Z世代のサンプル数が「761人」となっている一部の設問では、Z世代も18～26歳の時に交際経験のある人を対象としています。

※サンプル数は各項目に表記してあります。

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない場合があります。

目次

Chapter1 【世代別比較】18～26歳当時のパートナーとの関係性の変遷 調査報告 (P3～)

- ▶ Z世代のみ、パートナーに求めることの3位に「価値観」がランクイン。他世代に共通する「体型」はランクインせず
- ▶ Z世代は、パートナーと「性行為に関する会話」を活発にする傾向
- ▶ Z世代の81.6%がパートナーのマスターベーションに対して好意的と回答

Chapter2 【世代別比較】18～26歳当時に「パートナーのために実施している(していた)こと」の変化 (P5～)

- ▶ 「パートナーの生理による体調不良を気遣う行動」を、「必ず実施」する割合はZ世代が最多
- ▶ 「パートナーがお手洗いに行くタイミングを作ってあげる」「昇りのエスカレーターでパートナーの後ろに立つ」など、相手の体を気遣う行動は、Z世代のほうが高い傾向に

Chapter3 【世代別比較】18～26歳当時のパートナーとのセックス観の変遷 (P6～)

- ▶ Z世代は約2割が「セックスは重要ではない」と回答
- ▶ Z世代とミレニアル世代は約5割がアダルトグッズ使用経験あり
- ▶ Z世代はパートナーと「常に一緒にいたい」割合が低く、お互いの時間を大切にする傾向が

▶ 本件に関するお問い合わせ先

月刊TENGA 広報事務局 | 株式会社パブリックグッド内
TEL : 03-6416-3268 / FAX : 03-6416-3269 / MAIL : tengapr@publicgood.co.jp 担当：中尾

【世代別比較】 18～26歳当時のパートナーとの関係性の変遷 調査報告

▶ Z世代のみ、パートナーに求めることの3位に「価値観」がランクイン。
他世代に共通する「体型」はランクインせず

Q.18～26歳当時、パートナーを選ぶ上で重要視することは何でしたか？あてはまるものをすべてお選びください。

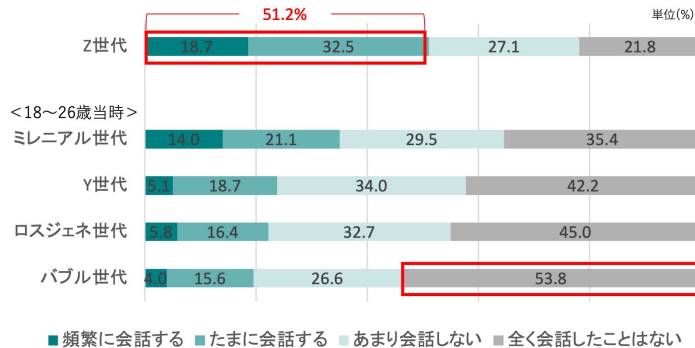


- ・パートナーへ求めることは、**全世代で1位が「顔」という結果となりました。**
- ・世代別で見ると**Z世代以外では、「体型」が上位になる一方で、Z世代では「人柄」「価値観」が半数以上で上位となりました。**

▶ Z世代は、パートナーと「性行為に関する会話」を活発にする傾向

＜マスターベーションについての会話＞

Q.18～26歳当時、パートナーとマスターベーションについて会話をする
はありましたか？

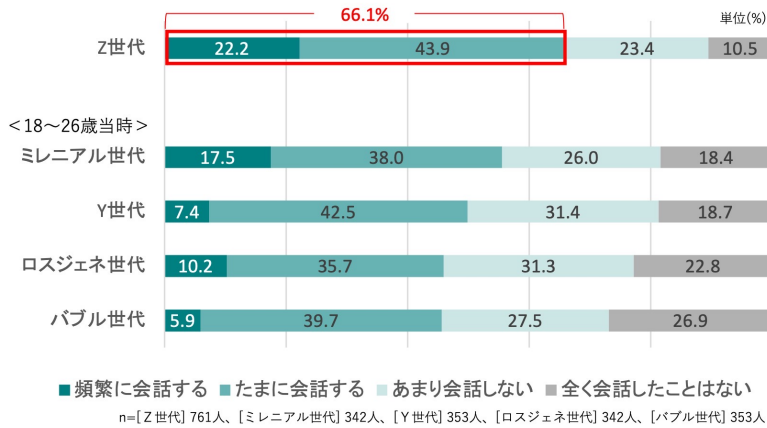


n=[Z世代] 761人、[ミレニアル世代] 342人、[Y世代] 353人、[ロスジェネ世代] 342人、[バブル世代] 353人

- ・Z世代の半数以上は、パートナーと「マスターベーションについて会話をする」と回答した一方、バブル世代の半数以上が「全く会話したことはない」と回答。

<セックスについての会話>

Q.18～26歳当時、パートナーとセックスについて会話をすることはありましたか？

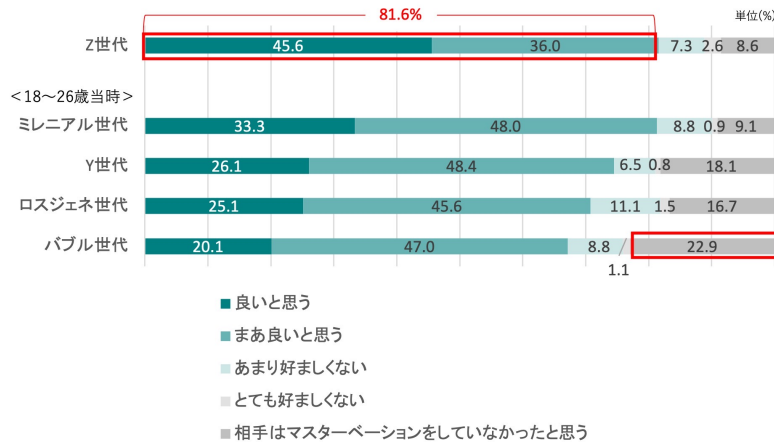


・セックスについての会話は、Z世代の約6割(66.1%)が「会話をする」と回答。世代が若くなるほど、パートナーと「性に関するコミュニケーションが取れている」傾向が見られました。

・性に関する会話をする機会が増えることにより、相手の体についての理解が深まり、Chapter2で紹介している「生理による体調不良を気遣う」「お手洗いにいくタイミングを作る」といった、パートナーの体を気遣える行動が、若い世代に増えているのではないかと推察されます。

▶ Z世代の81.6%がパートナーのマスターベーションに対して好意的と回答

Q. 18～26歳当時、「パートナーがマスターベーションをすること」についてどのように思っていましたか？



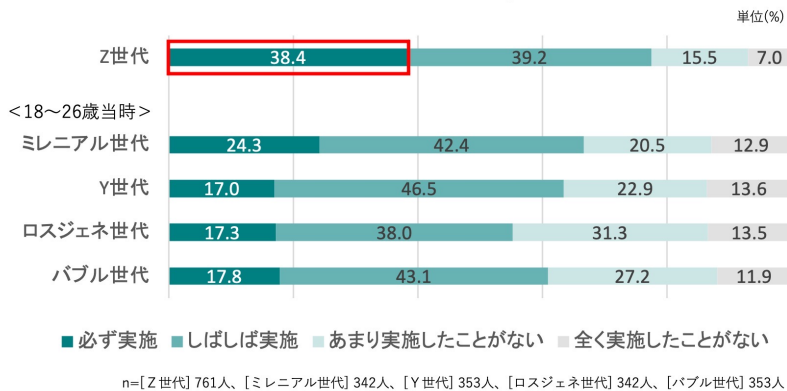
n=[Z世代] 853人、[ミレニアル世代] 342人、[Y世代] 353人、[ロスジェネ世代] 342人、[バブル世代] 353人

・年齢が若くなるほど、パートナーがマスターベーションすることに対して、良いと思う傾向に。一方でバブル世代の22.9%は「マスターベーションをしていなかったと思う」と回答しており、Z世代の2.6倍の結果でした。世代間でパートナーのマスターベーションへの理解・意識の差が見受けられました。

【世代別比較】18～26歳当時に「パートナーのために実施している(していた)こと」の変化

▶ 「パートナーの生理による体調不良を気遣ってあげる」ことについて、「必ず実施」する割合はZ世代が最多(38.4%)。上の世代にいくほど少ない傾向に

Q. 18～26歳当時、交際をスタートした後、パートナーのために実施していることについてお選びください。「生理による体調不良を気遣ってあげる」

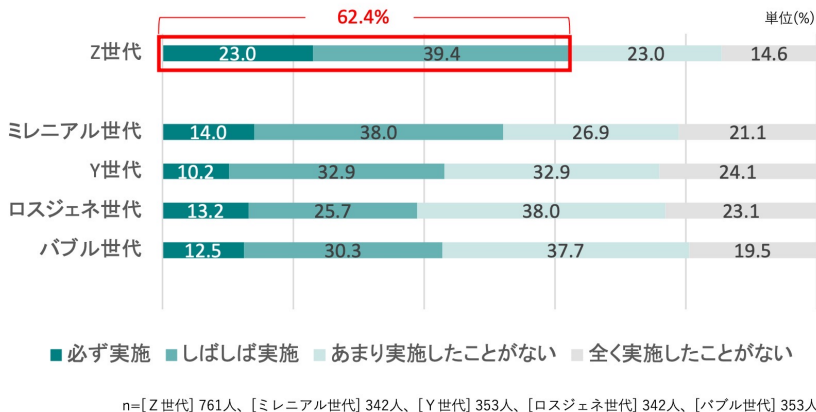


・「パートナーの生理による体調不良を気遣ってあげる」ことについて、Z世代の38.4%が「必ず実施」と回答。また、「しばしば実施」を含めると77.6%が「実施したことがある」と回答しており、他世代よりも高い傾向が見られました。

▶ 「パートナーがお手洗いに行くタイミングを作ってあげる」「昇りのエスカレーターでパートナーの後ろに立つ」など、相手の体を気遣う行動は、Z世代のほうが高い傾向

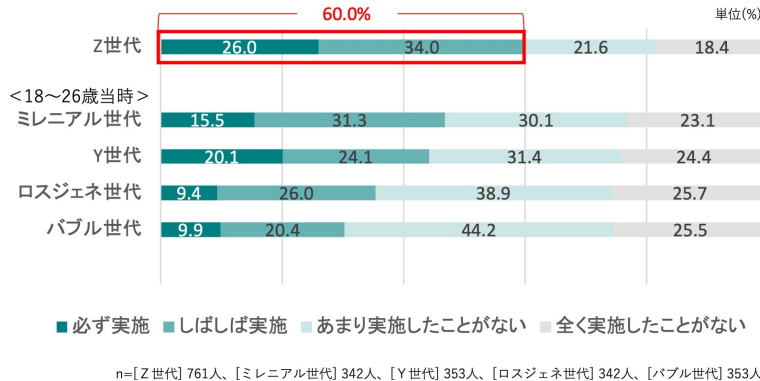
<お手洗いに行くタイミングを作ってあげる>

Q. 18～26歳当時、交際をスタートした後、パートナーのために実施していることについてお選びください。「お手洗いに行くタイミングを作ってあげる」



<昇りのエスカレーターでパートナーの後ろに立つ>

Q. 18～26歳当時、交際をスタートした後、パートナーのために実施していることについてお選びください。「昇りのエスカレーターでパートナーの後ろに立つ」



- ・Z世代はパートナーへ必ず・しばしば実施していることのうち、「お手洗いに行くタイミングを作ってあげる」が62.4%、「昇りのエスカレーターでパートナーの後ろに立つ」が60.0%と他世代よりも高い結果に。
- ・一方、バブル世代は「昇りのエスカレーターでパートナーの後ろに立つ」ことに関し、あまり・全く実施したことがないと答えた人が約7割(69.7%)という結果になり、世代差が大きく現れました。
- ・尚、上の世代の方が、「必ず実施している」と答えた人の割合が高かった項目としては、「食事代をすべて出す」(全世代平均24.8%、バブル世代38.8%、Z世代15.2%)や、「自宅まで送り迎えをする」(全世代平均30.6%、バブル世代39.9%、Z世代28.3%)が挙げられます。このように、気遣い方には世代差が見られました。

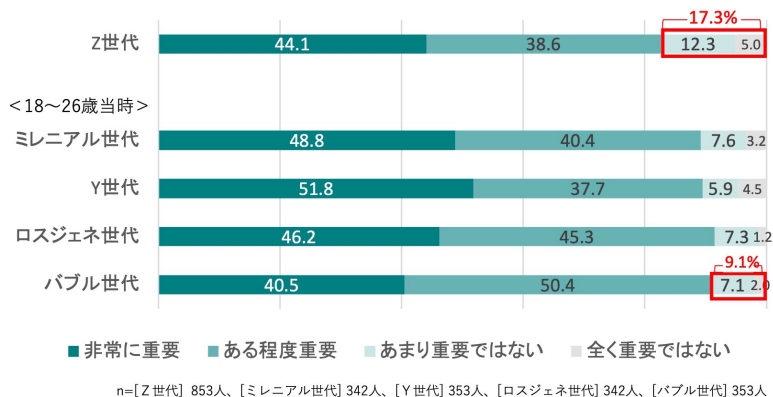
Chapter 3

【世代別比較】

18～26歳当時のパートナーとのセックス観の変遷

▶ Z世代の17.3%が、パートナーとの付き合いにおいて「セックスは重要ではない」と回答

Q.18～26歳当時、パートナーとの付き合いにおいて、セックスが占める重要度をお選びください



- ・Z世代の約2割(17.3%)が、パートナーとの付き合いにおいてセックスが「重要ではない」と回答。他世代の18～26歳当時よりも高い傾向が見られました。特にバブル世代はセックスが「重要ではない」と回答した人が9.1%と、Z世代と比べると約半数となっています。

▶ Z世代はセックスの時に、「パートナーの性的快感や痛みや負担」など体への気遣いを重要視する割合が高い傾向

Z世代のセックスの時に重要視することランキングTOP10
～他世代の18～26歳当時と比較～

Q.あなたがセックスをする時に重要視することを3つお選びください
※3つない方は重要視するとしらどんなことを想定してお答えください

Z世代			ミレニアル世代 18～26歳当時	Y世代 18～26歳当時	ロスジェネ世代 18～26歳当時	バブル世代 18～26歳当時
1位	パートナーが性的快感を感じられるか	41.7%	26.3%	26.9%	37.1%	36.5%
2位	挿入行為をする	38.9%	61.4%	58.9%	60.2%	57.5%
3位	身体の相性	34.6%	31.9%	31.2%	26.9%	22.9%
4位	自分自身が性的快感を感じられるか	26.5%	38.3%	36.3%	40.1%	45.6%
5位	パートナーの体に痛みや負担がないか	19.3%	8.2%	5.1%	7.6%	5.1%
6位	自分自身が射精できるか	15.2%	20.8%	24.4%	21.1%	21.2%
7位	パートナーと感情的なつながりを感じられるか	14.3%	6.7%	7.9%	7.3%	10.2%
8位	自分自身が精神的に満たされるか	14.0%	15.2%	20.7%	15.2%	15.0%
9位	パートナーが精神的に満たされるか	13.7%	6.4%	10.2%	5.6%	6.8%
10位	パートナーがオーガズムに達するか	13.1%	9.9%	11.0%	14.6%	14.7%

n=[Z世代] 853人、[ミレニアル世代] 342人、[Y世代] 353人、[ロスジェネ世代] 342人、[バブル世代] 353人

その他の選択肢：自分自身が射精する回数、自分自身の性的ニーズが満たされるか、自分自身のセクステクニック、自分自身の性器の動揺力、自分自身の性器のサイズ、自分に対してパートナーが思いやりを持って接してくれるか、自分自身の体に痛みや負担がないか、パートナーのオーガズムに達する回数、パートナーの性的ニーズが満たされるか、パートナーのセクステクニック、パートナーの性器、パートナーに対する思いやり、その他

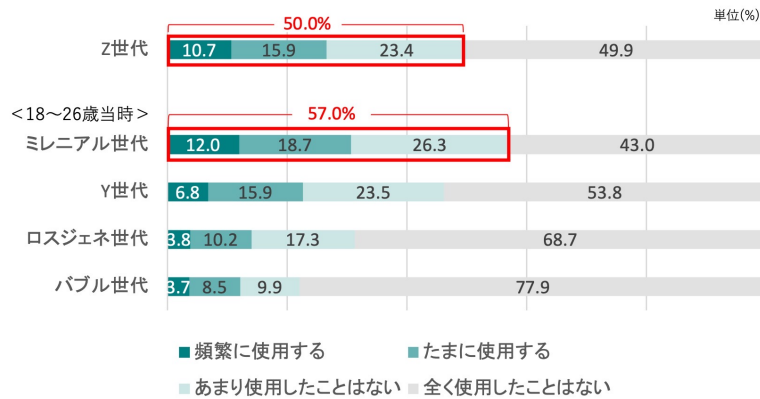
・セックスの時に重要視していることについて、Z世代は、他世代の18～26歳当時と比較して、「パートナーが性的快感を感じられるか」(41.7%)、「パートナーの体に痛みや負担がないか」(19.3%)など、パートナーを気遣う人が多い傾向が見られました。

・一方で、他世代の6割前後が重要視している「挿入行為をする」については、Z世代は4割弱にとどまるなど、世代間の差が顕著に見られました。

※詳細のレポートは、Z世代男性の性生活・性意識白書【前編】に掲載されています
(<https://www.tenga.co.jp/topics/17443/>)

▶ Z世代とミレニアル世代は5割以上がアダルトグッズ使用経験あり

Q. 18～26歳当時、アダルトグッズを使用したことはありますか？



n=[Z世代] 853人、[ミレニアル世代] 342人、[Y世代] 353人、[ロスジェネ世代] 342人、[バブル世代] 353人

・アダルトグッズの使用経験を聞いたところ、Z世代は「頻繁に使用する」と「たまに使用する」が26.6%、さらに「あまり使用したことはない(使用経験はあり)」を合わせると50.0%という結果。ミレニアル世代では57.0%使ったことがあり、半数以上が、アダルトグッズの使用経験があることがわかりました。



<TENGA広報よりコメント>

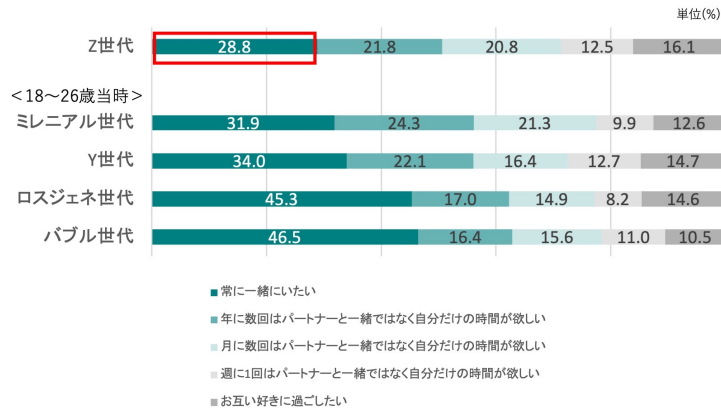
TENGAが発売されたのが2005年。ミレニアル世代が18～26歳当時は、まさにTENGAが世の中に広まったタイミングと重なるのかもしれませんが。

▶ 本件に関するお問い合わせ先

月刊TENGA 広報事務局 | 株式会社パブリックグッド内
TEL : 03-6416-3268 / FAX : 03-6416-3269 / MAIL : tengapr@publicgood.co.jp 担当 : 中尾

▶ Z世代はパートナーと「常に一緒にいたい」割合が低く、お互いの時間を大切にする傾向が

Q.18～26歳当時、理想的だと考えていたパートナーとの休日の過ごし方は何ですか？



n=[Z世代] 853人、[ミレニアル世代] 342人、[Y世代] 353人、[ロスジェネ世代] 342人、[バブル世代] 353人

- ・Z世代でパートナーと「常に一緒にいたい」と回答した人の割合は28.8%と、他世代よりも低い結果となりました。
- ・Z世代はパートナーといえど、お互いの時間を大切にする傾向が伺えます。

編集後記



株式会社TENGA
マーケティング本部
国内マーケティング部
橋 涼太

Z世代という言葉が注目される昨今、その世代特有の考え方や消費行動などの情報が取り上げられているのを目にしますが、性についてはどうなんだろうという疑問から、本レターの制作がスタートしました。レター内で紹介させていただいた定量調査意外にも、Z世代男性にデブスインタビューも複数回実施し、また私自身もZ世代の気持ちを理解できるようになりたいと、流行りのTikTokやYouTubeを見漁ったりと、よりZ世代を意識した年末年始を過ごしました。

カップルYouTuberの動画では、彼女が生理だった時の彼氏の言動を隠し撮りする検証動画などをよく見かけましたが、これらの影響も本調査の結果に現れているのかなと感じます。

Z世代は「セックス経験が低下している」「マスターベーションをしなくなった」といったことに注目されがちですが、性についての知識や理解は深まっており、そのうえでするもしないも個人の自由という考えが増えているのかなとも感じます。一昔前の「男はみんなオナニー大好き」「童貞は早く卒業したほうがいい」といった圧力から解放され、自身の性を自身のペースで楽しんでいる世代とも考えられます。

ふと、私自身の初体験のことを思い出したのですが、当時は1日でも早く童貞を卒業したいという思いから相手のことは深く考えられていなかったのかなと思います。

当時を振り返ってもパートナーの性への理解が深いZ世代は、我々世代よりも大人なんだなあと感じさせられましたね。

Pick Up News

ちょっぴり恋心風味。甘くPOPなTENGAチョコ。さらに美味しくなって発売中！

2023年1月11日より、TENGA形のパッケージに小粒のTENGA型のチョコが入り、毎年バレンタインの時期に注目を集める「TENGA チョコレート」を発売いたします。今年「シティポップ」をコンセプトにしたPOPなパッケージと、レトロでキュートなイラストが大人気のボバa.k.aえんちゃんによる描き下ろしのキービジュアルが登場です。2021年に発売して大好評だった「レモン」「ストロベリー」「ハイカカオ」の3つのフレーバーが、さらに美味しくなって登場。好評だったモルトパフや顆粒のザクザク食感はそのままだに、「レモン」「ストロベリー」は爽やかで甘酸っぱいフルーツ感がアップ。「ハイカカオ」は大人なほろ苦さだけでなく、やさしい甘みもより楽しめる絶妙なバランスに調整しました。



月刊TENGA

は、TENGAの製品やニュースだけでなく、性にまつわる様々な情報を定期的に提供するニュースレターです。

“面白おかしさ”を大切にしつつも、性と真正面から向き合い、真面目に作り続けてきたTENGAだからこそ発信できる、硬軟様々な情報を届けます。様々な文献や歴史、そして人物、市場情報など多様なリサーチと開発を継続し、皆様により意義と価値のある情報を提供できればと考えています。性に関するストレスが少しでも軽減されたり、親しい誰かに相談するきっかけを作ったりと、性の悩みを和らげられる社会づくりへの貢献をめざします。

月刊TENGA バックナンバー

<https://www.tenga.co.jp/topics/category/g-tenga/>

TENGA 公式オンラインストア <https://store.tenga.co.jp>

TENGA コーポレートサイト <https://tenga-group.com>

画像ダウンロード用URL <https://www.tenga.co.jp/gekkan/gekkantenga48.zip>

▶ 本件に関するお問い合わせ先

月刊TENGA 広報事務局 | 株式会社パブリックグッド内

TEL : 03-6416-3268 / FAX : 03-6416-3269 / MAIL : tengapr@publicgood.co.jp 担当 : 中尾

Page

8/8